



校長室だより

「いじめ」は絶対許さない！！～「命の駅伝」から学ぶ～



6年生の修学旅行を始め、各学年の遠足等の校外行事も無事終わり、実りの2学期も終盤に差し掛かってきました。気がつけば朝夕の寒さが厳しくなり、子ども達も手袋やマフラーをし始めています。昨日の「校長講話」では、「なかよし旬間」にちなんで次のような話をしました。

いじめは2度としない～『命の駅伝』から学ぶ～

全校の皆さん、おはようございます。今日も気持ちよいあいさつが出来ましたね。さて、今週の月曜日から「なかよし旬間」が始まりました。そこで今日は「なかよし旬間」にまつわるお話をしたいと思います。

まず最初にある人の手紙の一部を読みます。『僕は死にます。もうつかれた。お父さんお母さんごめんな。じいちゃんにはあちゃん、兄貴にもほんとうにごめんな。俺はもうこんなところにはいたくないんだ。直前まで本当に迷惑かけたけど、迷惑かけっぱなしだったけど、許して下さい。みんな今まで本当にありがとう。～中略～死ぬ理由がいまいち分からないと思う。実は、俺、いじめにあっていたんだ。同じクラスのAってやつ。あいつさえ、あいつさえ居なけりゃ楽しい学校だったのに。～中略～宿題はやらされるし、自習の時プリントがあると必ずやらされた。暴力もふるわれた、俺は何もしていないのにいきなり蹴られた事もあった。これから見れば中学の時は楽しかったのにな。決まり文句だけど先立つ不幸をお許し下さい。みんな今までありがとう。そして、さようなら。』

この手紙は今から20年ほど前に佐久のある高校でいじめにあって自殺をしてしまった高校生が書いた遺書の一部です。先月全国ニュースで青森県の中学2年生の女の子がいじめで自殺をしてしまった事件が取り上げられていましたが覚えている人も多いと思います。写真のコンテストで最優秀賞をとった写真に写っていた子が実はいじめで亡くなっていたということで大きなニュースになりました。この事件と同じ様にいじめが原因で自殺をしてしまったことが、実は皆さんが住んでいるこの佐久でも実際に起きていたのです。テレビのニュースで見ていると、遠いところで起きた自分には関係のない出来事のように思えるかもしれませんが、実際にはすぐ身近でも起きている出来事なのです。佐久で起きたこの事件をきっかけにこの地区ではこの20年間毎年「いのちの駅伝」という行事を行い、2度とこの様な悲劇を起こさないための取り組みをしています。

岸野小学校では幸い今までこの様な自殺をするという悲しい出来事は起きていませんが、ほんの少し油断するといつこの様なことが起きてしまうとも限りません。この様な出来事をこの世からなくすにはどうしたらよいのでしょうか。今日はみなさんにこのことを真剣に考えてほしいと思いこのお話をしました。そして、よく考えて明日の日記に少しでもいいから自分の考えを書いてきてほしいです。ひとりの人に命はひとつしかありません。ひとつしかない大事な命を精一杯使って毎日を生き生きと過ごしてほしいと先生は願っています。今日は悲しい話をしましたが、全員が楽しく過ごすための大事な話をしました。以上で今日の話が終わります。

11月の校長室だよりは、今週から始まっている「なかよし旬間」にまつわる「いじめ」の話を載せました。「いじめ」は大事な命を奪う可能性もある重大な事案です。岸野小では「いじめ」で悲しむ子がなく、子どもと職員が一体となっていじめ撲滅に取り組んでいます。何かお気づきの点がありましたら、すぐに学校までお知らせ下さい。保護者や地域の皆様の信頼に応えられるように、更なる子ども達の健やかな成長のために、2学期も最後までご支援・ご協力よろしくお願い致します。

佐久市立岸野小学校

*ご意見、ご要望、お問い合わせなどは、下記までお寄せ下さい。

TEL 0267-62-0384

Fax 0267-62-0542

